

台風20号が11/7午前、日本の東の海上で温帯低気圧に変わって、ホッとしたのも束の間、9日の福島は天気予報は午後から降水確率70%。心配しながら到着した福島駅から見上げる空は今にも泣きだしそう。なんとか、レース終了までもちこたえて欲しいと祈りつつ、タクシーで福島県あづま総合運動公園へ急いだ。

今日の福島市はスポーツが満載。東日本女子駅伝（東日本18都道府県代表の中学生から社会人までの9人の女性ランナーがチームを作り、福島市の42.195 キロのコースを黄色いタスキでつなぐ）の開催は知っていた。それに加えて個人タクシーのSさんから『JRA秋の福島競馬（10/18～11/16の土日計10日間）』、『福島県サポーターズマッチJ3サッカー＜福島ユナイテッドFC対AC長野パルセイロ＞』の開催も聞いた。

Sさん曰く、震災後、風評被害で観光客が少なくなる中、震災復興の冠をつけたスポーツイベントがドンドン増えて観光客減少に歯止めをかけてくれている。そういえば、私は震災後、仕事の関係もあり、宮城へは何度もいったが、福島は通りすぎるだけ。少し反省していたら、紅葉の日本デュアスロン選手権会場に到着した。



日本デュアスロン選手権コース（あづま総合運動公園）



恥ずかしながら、初めてのデュアスロン応援である。少し調べてみた。

『デュアスロン（duathlon）とはトライアスロンのスイムをランニングに代えて行う競技で、第1RUN（ランニング）、BIKE（自転車ロードレース）、第2RUN（ランニング）を順に行う。

特に自転車愛好者の多いヨーロッパではトライアスロンの大会数をも上回る開催数で、完走を楽しむ老若男女から、「デュアスリート」と呼ばれる非常に競技レベルの高いこの競技専門のアスリートまで誕生し、様々なレベルの選手たちがこの複合競技を楽しんでいる。走行距離は大会、カテゴリーによって異なり、世界選手権、ワールドカップ等では「R10km + B40km + R5km = 55km」で行われる。』

今回のコースは上図で、久保埜さん出場のU19の距離は「R5km + B20km + R2.5km = 27.5km」である。



いよいよ、日本デュアスロン選手権U19カテゴリーのレースがスタート。

63番が我らの久保埜さん。「期待してます、頑張ってください！」

第1ランは混戦状態、下の写真では久保埜さんは真ん中。



第1ランは3位、左のトランジションエリアでバイクに乗り走り去った。久保埜さんがあまりに速く、63番を探し、「あつ、見つけた」と思った瞬間、見失うという失態を何度も犯し、バイクのいい写真がありません。
「ごめんなさい <(_ _)>」

第1ランの遅れをバイクで挽回。トップに立った。
第2ランは力強い走りでぐんぐん差を広げる。
<下の写真>





第2ランは独走、一人旅状態。雨も降らず、美しい公園内を軽やかに走り抜けていく。



コーナーをきれいに回って、1着でテープを切る！やったあ〜、おめでとう♪



記録としては2位に48秒差をつけた余裕の勝利。第1ランではドキドキする展開だったが、バイクでほぼ1分の差をつけてしまう速さ。素晴らしい。

順位	No.	氏名	年齢	総合記録	1ラン	順位	バイク	順位	2ラン	順位	タイム差
1	63	久保埜 南	17	1:08:04	0:19:45	3	0:37:45	1	0:10:34	1	
2	61	中島 帆波	18	1:08:52	0:19:38	1	0:38:39	5	0:10:35	2	0:00:48
3	62	小原 すみれ	18	1:09:06	0:19:40	2	0:38:36	4	0:10:50	3	0:01:02
4	67	枝光 美奈	16	1:10:42	0:21:13	5	0:38:21	2	0:11:08	4	0:02:38
5	66	橋本 紗英	16	1:11:06	0:21:03	4	0:38:32	3	0:11:31	5	0:03:02

ゴール直後、久保埜さんがしっかりインタビューにこたえてくれた。息切れも、疲れた様子もまったくないことに驚いた。『今後の抱負は来年の世界選手権に向けて、今回のデュアスロンの結果をステップアップとして、しっかりと練習を積んでいき、世界選手権ではユースオリンピックでは果たせなかったチャレンジをもう1回リベンジしていきたいと思います。応援、よろしくお願いします。』

ユースオリンピックでは5位入賞という栄誉だったものの、彼女のターゲットはメダル、それも最も輝く色の。「そのチャレンジを応援しつづけます！世界選手権、期待しています！」



インタビュー終了を待っていたかのように雨が降り出した。あずま公園周辺はデュアスロンと東日本女子駅伝で交通規制しているため、雨の中だが、久保埜さんに影響され、力強いウォーキングで車が走れる道へ。

すると、ちょうどそこで、東日本女子駅伝の東京代表、長野代表のランナーと遭遇。ラッキー。「ガンバレ～」
＜左の写真＞

久保埜さんが優勝するまで雨を降らせなかった福島には近々、また来よう。次は福島競馬かな。うん。